

令和 2 年度 学校評価における 重点項目

①【学校】

学習・運動・学校行事等を通して、「できないことができるようになる」ためのチャレンジを支援し、達成感を味わわせることで自尊感情を育てる取組を進める。

②【コミュニケーション力・挨拶】

授業をとおして伝え合う力を育て、実生活の中で、よりよい人間関係を育むためのコミュニケーション能力を高める。コミュニケーションの基本である挨拶を、だれにでも自分から進んでできる児童を増やす。

③【学力】

外国語・外国語活動について、さらなる研修を積み、児童が意欲的に取り組める授業を工夫する。

④【健康・体力向上】

体幹を鍛える運動や体づくり運動を積極的に取り入れるとともに、規則正しい生活習慣の重要性を家庭に啓蒙し、体力向上を図る。

⑤【環境・安心安全】

清掃活動に重点をおき、清潔で安心安全な環境整備に取り組む。

⑥【連携】

HP や Twitter、学校・学級だより・懇談会等をとおして、積極的に情報発信し、保護者・地域との連携を深める。

令和2年度学校評価〔中間評価〕

〔1〕 重点課題番号 評価項目	〔2〕具体的達成目標と評価指標 具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化	〔3〕自己評価		〔4〕外部アンケートの分析	
		中間評価		児童生徒アンケート	
		評価日 12月23日	実施日 7月・12月	公表日 1月29日	実施日 12月
	公表日 7月1日	公表日 1月29日	公表日 1月29日	公表日 1月26日	
	公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	公表方法 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	
①	○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全職員で共通理解を図る。 ○主体的な学びのある授業・「できない」を「できた」にする授業の工夫に取り組む。(めあての意識化、学びの焦点化、振り返りの設定)	B	○個々の児童について共通理解を図るため、児童理解の会議を7月に実施した。 ○7月・11月に授業観察の機会をもち、児童の取組の様子や授業の工夫等について授業者と交流した。	「学校へ行くことが楽しみ」+82.0 「授業が分かりやすい」+90.2 「できるようになるとチャレンジをたくさんしている」+76.7 「困ったことや悩んだことを先生に相談している」+59.7	「学校へ行くのを楽しみにしている」+95.1 「授業が分かりやすいと言っている」+85.0 「学校は相談に適切に応じている」+84.8 「学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる」+80.5
②	○生活目標を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。(挨拶) ○授業・学級活動での話し合いの充実を図るとともに、クラブ活動・委員会活動でも話し合いの機会を積極的に設ける。	B	○生徒指導部が掲げる生活目標に沿って、児童の主体的な取り組みを委員会活動とも連携し進めている。 ※生活目標 6・7月 9・10月 11・12月	「自分から1日10人以上に挨拶」+74.1 「話したり話し合ったりすることが好き」+88.7 ※アンケート欄の+の後の数字は、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計ポイント数	「子どもは地域(校区)の知っている人に会ったらいつも挨拶をしている」+71.5 「家庭で子どもと話す時間をできるだけもっている」+90.3
③	○校内研究教科を「外国語(活動)」とし、研修を深める。(相手意識を大切にコミュニケーション能力の育成) ○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、指導力向上を図る。	B	○1・2・3・4年で外国語(活動)の授業公開を行った。授業公開に向けては学年での教材研究が深められ、授業後の研究協議を通して研修を深めた。	「英語の授業が楽しみ」+51.3	「子どもは英語や外国のことに興味をもっている」+77.3 ※アンケート欄の+の後の数字は、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計ポイント数
④	○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。 ○体幹を鍛える運動を、昨年度に引き続き実施し、定着させる。 ○規則正しい生活の確立について、家庭と連携して進める。	B	○体力テストの結果分析による本校児童の課題を踏まえて、体育部により新しい「体づくり運動Ver2」が制作され10月末から毎朝実施。	「早寝早起き朝ごはん・しっかり運動・好き嫌いなしができてきている」+75.8 「家庭学習の習慣ががついている」+84.5	「好き嫌いのない食事・早寝早起き朝ごはん・外遊びをしている」+76.7 「家庭学習の習慣ががついている」+78.3
⑤	○清掃活動の充実、教職員による安全点検、見回り等を通じて、児童にとって安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。 ○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。	B	○教職員による校内安全点検と校区内パトロールを毎月行い、危険箇所や修繕箇所の早期対応に努めている。 ○避難訓練は、教室での避難経路確認や、学年ごとの避難誘導など、感染症対策を講じながらの実施となった。	「校内がきれいになるようにしている」+89.9	「学校は子どもとともに清潔な環境美化に努めている」+85.2
⑥	○年間を通じて外部の団体・学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いの中で体験的な活動の充実を図る。 ○HPやTwitter、学校・学級だより・懇談会等とおして、積極的な情報発信に努める。	B	○外部団体や地域の方々による出前授業は、感染症対策を講じながら9月より徐々に進めてきた。密を避けるために同内容を複数回実施していただく等、協力いただいている。 ○宿泊体験学習についてはTwitterでの発信を行ったが、継続しての活用には至っていない。		「HPや台小だよりを通じて、教育方針や教育活動を分かりやすく伝えている」+81.0

令和2年度学校評価〔総括〕

※学校関係者評価を含む

〔1〕 評価項目 (重点課題番号)	〔2〕具体的達成目標と評価指標 具体的な、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化 公表日 7月1日 <input checked="" type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 文書配布 公表方法 <input type="checkbox"/> 説明会実施 <input type="checkbox"/> その他	〔5〕自己評価		〔6〕学校関係者評価
		最終評価(成果と課題)		評価者J 8人
		評価日 公表日	課題の改善策等 2月26日 3月4日	評価日 3月4日 公表日 3月26日
①	○児童に関する情報を共有するための会議を開催し、全職員で共通理解を図る。 ○主体的な学びのある授業・「できない」「できた」にする授業の工夫に取り組む。(めあての意識化、学びの焦点化、振り返りの設定)	A ○1学期に行った児童理解(7月実施)の内容を踏まえて、2月には、その後の児童の成長・変容と次年度に向けての課題・共通認識を確認する会議を行った。 ○教職員の学級づくりや授業の工夫についての自己評価のポイントが高く、一人一人を大切にしたい学級経営やわかる授業づくりに取り組んできたことがわかる。「学校へ行くことが楽しみ」「授業が分かりやすい」の項目については、児童・保護者ともに一定の評価をいただいたと考えている。 「一人一人の良さを認め、なかまづくりを重視した学級づくりができた」+97.0 「どの子もよく考え理解できる分かりやすい授業の工夫を図ることができた」+87.0	○生活面、健康面、アレルギー対応等、児童一人一人の課題は様々で、その配慮や支援については保護者との連携が不可欠である。保護者と信頼関係を結びながら、協力体制を一層強めていく必要がある。今後も、一人一人を大切にしたい学級経営やわかる授業づくりの取組に努め、保護者や地域に信頼される学級づくりを推進する。 ○OGIGAスクール構想による一人一台端末の配備が整えられ、ICT活用の充実が求められている。本年度も、職員研修を重ねて取り組んできたが、今後は様々な活用事例に学びながら学校全体としての取組をすすめていきたい。	○児童アンケートにおいて「授業が分かりやすい」の回答が高く、教育活動が効果的に進められている。 ○一人一人それぞれの課題を抱え、様々な実態の児童がいる中で、個に応じた対応を求められる教職員の負担は大きい。児童理解の取組を学校全体で進めることは評価したい。
②	○生活目標を具体的なめあてとともに掲げ、取組を進める。(挨拶) ○授業・学級活動での話合いの充実を図るとともに、クラブ活動・委員会活動でも話合いの機会を積極的に設ける。	B ○挨拶については、児童アンケートにおいては、7月実施と12月実施の結果を比較すると7.9ポイント上がっている。今後も具体的取組を推進しながら「いつでも」「誰にでも」「自分から」元気な挨拶のできる児童を育てたい。 ○今年度は感染症対応のため、対話的な学びの場を設定することが困難であったが、家庭での会話時間が充実していたことがアンケート結果からわかる。 「話合い活動を授業に取り入れ、コミュニケーション能力を高めることができた」+56.0	○定期的な生徒指導部での情報交換を軸に、本校の生徒指導上のかだいを、学校全体で共有しながら、共通認識の上に立って統一感のある指導を進める。 ○コミュニケーションの基盤となる挨拶の指導は、全教職員で継続していく。 ○新しい生活様式の中での対話的な学びのあり方を研修しながら、授業の中における集団解決の場の設定を工夫していく。	○挨拶の取組は、児童アンケートの結果からも効果的に進められていることがわかる。家庭や地域も巻き込んだ取組の展開が求められる。 ○地域の見守り活動の中でも、高学年児童の挨拶の姿が印象的である。地域としても、挨拶とおして活発なコミュニケーションの図れる地域にしていきたい。学校とも連携して進めたい。
③	○校内研究教科を「外国語(活動)」とし、研修を深める。(相手意識を大切にしたいコミュニケーション能力の育成) ○各学年よりそれぞれ授業公開を実施し、研究主題に沿った授業研究を深め、指導力向上を図る。	B ○1・2・3・4・6年で外国語(活動)、5年で統計情報教育の授業公開を行った。授業公開に向けては学年での教材研究が深められ、授業者が複数のクラスで授業をするなど指導案が練り上げられた。授業後の研究協議は、様々な学年の視点から意見が述べられ、研修が深まった。 ○「外国語」の教科化に伴い、高学年において英語の授業に対する抵抗感が大きくなっている。小中連携の視点をもって、研修を継続していきたい。 「外国語(活動)の授業では楽しく分かりやすい授業の工夫をすることができた」+65.0	○次年度は、研修主題を「生きる力にあふれる児童の育成を目指して～相手意識を大切にしたいコミュニケーション能力を育む～外国語(活動)を通して」としての3年次となる。「話すこと[やり取り]」の領域を重点項目として取組を進める。 ○話すことに関してルーブリック(学習到達状況を評価するための評価基準)を具体的に示すことで、児童が「できた」と感じられる機会を増やし、児童の意欲を高めていく。 ○外国語科におけるスムーズな接続を図るため、小中連携を推進していく。	○英語教育やICTを活用した新しい授業の取組など、今後の児童の成長に期待がもてる。地域や関係機関との連携を深めるとともに、職員の研修も充実させながら、さらなる推進を期待する。
④	○毎朝の体づくり体操を継続するとともに、効果的な「体づくり運動」の取組を工夫して進める。 ○体幹を鍛える運動を、昨年度に引き続き実施し、定着させる。 ○規則正しい生活の確立について、家庭と連携して進める。	B ○体づくり運動はVer2になり、毎朝の教室では、一つ一つの動きの意味を理解して取り組む様子が見られる。また、体育部と体育委員会が中心になり、「短縄チャレンジ」の取組も行われた。休み時間各学年での「みんな遊び」も活発で、今後も様々な角度から体力向上の取組の充実を図っていききたい。 ○今年度は、体幹を鍛えるトレーニング(KOBATレ)を、特別支援学級において3回実施した。 「児童の体力を高めるよう指導の工夫をして取り組んだ」+79.0 「学年×10分間をゆやすく、家庭学習の習慣づくりを図ることができた」+84.0	○毎日の体づくり運動は、短時間ではあるが有効な取り組みとして、今後も継続していきたい。 ○体力向上の取組は、今後も年間を通じて、計画的に進めていく必要がある。体育部や委員会活動とも連携し、児童が進んで運動に取り組めるような企画を工夫し実践していきたい。	○地域では外遊びをする子どもたちの姿を見ることが少なくなっている。通信機器の発達により、家中に居ながらして皆さんの友達とつながって遊ぶことができてきている。学校での体力向上の取組は、今後ますます重要になってくるのではないかと。
⑤	○清掃活動の充実、教職員による安全点検、見回り等を通じて、児童にとって安心安全な学校生活のための環境整備に取り組む。 ○命を守る行動を身に付けるため、避難訓練・薬物乱用防止教室・交通安全教室・ネットスマホ安心安全教室をそれぞれ実施する。	A ○毎日の清掃時間は、児童・教職員が一緒になって環境美化に取り組んでいる。毎月行っている教職員による校内安全点検と校区内パトロールによる危険箇所や修繕箇所の指摘は、迅速に対応することで事故の未然防止につながっている。 ○避難訓練(2回・全学年)、薬物乱用防止教室(6年)を実施。地域の安心安全につながる取組として6年生で認知症サポーター養成講座を実施。 「清掃活動を重視し、環境について考えさせることができた」+87.0	○安心安全な学校生活のための環境整備は、教育活動の基盤であることを再確認し、今後も丁寧な取組を進めていく。 ○命を守る行動を身に付ける取組については、児童の発達段階に応じて、計画的に継続して取り組む必要がある。今年度実施できなかったものについては、次の学年で補えるよう引き続き進めていく。	○登下校時など地域の中で気になる行動があるときは声をかけるようにしている。学校はもちろん地域全体で子どもの安心安全を守り育てる意識が必要である。 ○今年度は感染症の状況もありしんとい一年であったが、学校での子ども達の様子はたいへん明るく元気ももたらした。
⑥	○年間を通じて外部の団体・学校ボランティア等による指導を受ける機会を設け、様々な立場の人々との出会いの中で体験的な活動の充実を図る。 ○HPやTwitter、学校・学級だより・懇談会等とおして、積極的な情報発信に努める。	B ○各学年で外部団体や地域の方々による出前授業の活用を積極的に進めた。どれも感染症対策を講じたが実施となったが、様々な立場の人々との出会い、生き生きと活動する児童の姿があった。 ○「自分だより」は、家庭と学校をつなぐ情報発信ツールとして、必要に応じて発行した。学年だよりや学級通信にも積極的に取り組んでいる。しかしながらHPやTwitterの更新は十分ではなく、今後の課題である。	○体験を通して学ぶことの教育的効果は大きい。今後も、外部団体や地域の方々の協力を得ながら進めていきたい。 ○HPやTwitterを活用しての情報発信を充実させていく必要がある。正確な情報をタイムリーに発信できるように校内の体制を整える。	○新鮮な情報の発信は重要である。保護者に向けての発信は、学校だよりや斉メールを活用して効果的に行われた。職員の方にも呼ばれている。情報発信についても、役割分担しながら負担のないようにすすめてもらいたい。